

第104回 発電用設備規格委員会 議事録

1. 日 時：2022年12月22日（木）10:00～18:20

2. 場 所：WebEX システムによるオンライン開催

3. 出席者：委員26名（委員代理含む）、敬称略

【委員】

笠原委員長（東大）、高橋副委員長（理科大）、伊阪幹事（関西電力）、鈴木（中部電力）、波木井（東電）、木村（NIMS）、堂崎（東北大）、町田（TEPSYS）、浅山（JAEA）、大谷（MFBR）、平野（日立GE）、楠（日本原電）、爾見（発電技検）、中村（川崎重工）、三浦（電中研）、朝田（三菱重工）、山口（HSB ジャパン）、室伏（東芝ESS）、高柳（電機協会）、藤田（三菱重工、火専長）、松永（東芝ESS、原専長）、西井（電源開発、材専長）、川畑（東大）、増川（火原協）

【委員代理】

永田（日立GE）：酒井委員（横国大）代理、戸張（QST）：橋爪委員（東北大、核専長）代理

【欠席】

小山（日本製鋼所M&E）、洪鋤（IHI）

【アドバイザー】

なし

【常時参加者】

なし

【オブザーバ】

山田（中部電力）、野村（CSエンジニアリング）、高屋（JAEA）、小口（三菱重工）、白井（電中研）、清水（日立GE）、中村いずみ（防災研）、岡島（JAEA）、安藤（日立GE）、北条（三菱重工）

【事務局】

花井、松岡、渡邊

4. 配布資料

104-0：第104回 発電用設備規格委員会議事次第案

104-1：第103回 発電用設備規格委員会議事録案

104-2-1：発電用設備規格委員会名簿案

104-2-2：専門委員会名簿案

104-3-1-1：AM規格骨子 意見伺い

104-3-1-2：AM規格骨子と課題

104-3-2-1：学協会規格の運用合理化に向けた電気事業連合会からの提案

104-3-2-2-1：規格類統廃合等の電事連からの提案への対応について

104-3-2-3：学協会規格の継続的な活用に向けた電気事業者からの提案

104-3-3：NBI 絶縁体構造規格概要説明

104-3-4-1：アルミバスケット事例規格案 規格委書面投票 No. 573 結果報告

104-3-4-2：アルミバスケット事例規格案公衆審査計画

104-3-5：累積損傷則の成立性

104-4：第93回 発電用設備規格委員会幹事会議事メモ

104-5：投票結果

104-6：発電用設備規格に関する質問受付及び回答状況

104-7：火力専門委員会報告

104-8：原子力専門委員会報告

104-9：材料専門委員会報告

104-10：核融合専門委員会報告

104-11-1-1_第69回 原子力関連学協会規格類協議会幹事会議事概要

104-11-1-2_第 69 回協議会_議事次第
 104-11-1-3_民間規格の技術評価の実施に係る計画
 104-11-1-4_技術評価を希望する学協会規格
 104-11-1-5_学協会規格の継続的な活用に向けた電気事業者からの提案
 104-11-2_2022 年度規格ピアレビュー
 104-11-2_(参考 1)_チェックシート (重点領域) 1 次集約結果
 104-11-2_(参考 2)_チェックシート (関連領域) 1 次集約結果
 104-11-3_材料審議規約案及び再発防止対策案投票結果
 104-11-4_ASME Code Week (2022 年 11 月) 概要報告
 104-11-6 設計・建設、材料及び溶接に係る日本機械学会の規格の技術評価の実施
 104-11-7: 規格出版状況・事例規格の発行形態
 104-12-1_【参考資料 1】202X 年版詳細規定第 VI 章／第 VII 章の承認済み改訂案の修正提案
 104-12-2_【参考資料 2】発電用火力設備規格 詳細規定 (202X 年版) 第 VI 章／第 VII 章 改訂案_ASME2011a
 との相違点確認結果リスト
 104-12-3_【投票資料 1】詳細規定 第 VI 章 非破壊検査 新旧対比表 (誤記確認結果反映_火専投票 No96
 後)
 104-12-4_【投票資料 2】詳細規定 第 VII 章 溶接施工法・溶接技量 新旧対比表 (誤記確認結果反映_火専
 投票 No96 後)
 104-13-0_#104 規格委_設計・建設分科会_審議案件
 104-13-1-1_DC22-22_解説での式の誤記_合本_R2V2_規格委員会
 104-13-1-2_DC22-16_許容応力に対する特別な要求 JIS G4052_合本_R0V2_規格委
 104-13-1-3_DC22-20_PPC&PPD-3424 穴補強適用条件正誤表_合本_R1V2_規格委
 104-13-1-4_DC22-24_図 VVB-3320-1 矢印の抜け_合本_R0V2_規格委
 104-13-1-5_DC22-25_図 VVB-3411-1 r1 寸法位置_合本_R0V2_規格委
 104-13-1-6_DC22-19_解説 VVB-3390 JIS B 8265 タイトル正誤表_R4_規格委
 104-13-1-7_改 1_DC22-15_式(解説 PVE-2_3) 右辺第二項正誤表_R4_規格委 LB
 104-13-2_DC22-23_設計建設 2022Ed_公衆審査版からの変更提案_合本_R1V2_規格委
 104-14_規格委員会書面投票結果
 104-15-0 資料リスト
 104-15-1_FSR-21-03_補修章における検査章の参照先の見直し
 104-15-2 添付 E-10 の改定に伴う本文改定
 104-15-3 維持規格 2022 年版パブコメ回答案
 104-15-4 PWR ラジアルキーの検査 (FSI-20-15)
 104-16 材料規格 2022 年公衆審査版からの編集上の修正提案
 104-17_高温規格分科会審議案件リスト
 104-17-1-1 (ETD13-002) 材料強度基準等に規定する材料と JIS 材料の関係明記 (その 1)
 104-17-1-2 (ETD13-002) 材料強度基準等に規定する材料と JIS 材料の関係明記 (その 2)
 104-17-2 (ETD22-011) JIS G 0567 と JIS K 6250 の準用年版の更新と日本産業規格の追記
 104-17-3 (ETD22-013) 用語「パッキン」の使用方法の適正化
 104-17-4 (ETD22-010) クラス 2 配管の熱荷重に関する規定に対する正誤表の発行
 104-17-5 (ETD22-015) クラス 1 支持構造物の構造の規格の解説に対する正誤表の発行
 104-17-6 (ETD22-016) FPVE-3110 で呼び出している規定番号及び FPVC-3901 に関する解説タイトルに関
 する正誤表の発行
 104-17-7-1_公衆審査用原稿からの修正 (信頼性評価ガイドライン)
 104-17-7-2_修正内容一覧表 (信頼性評価ガイドライン)
 104-17-7-3_高速炉機器の信頼性評価ガイドライン_公衆審査後修正案_見え消し
 104-18-1 金属キャスク構造規格改定提案 R1
 104-18-2 金属キャスク構造規格改定提案 来歴表

104-18-3 金属キャスク構造規格改定提案 「提案票 MC16-14」

104-18-4 材専二次投票意見回答
(104-19 欠番)

104-20 2022_1222 規格委 耐震事例規格改定進捗報告等(耐震タスク)_合本

104-21-1-1_環境疲労評価手法_2022 年版改定案 公衆審査版修正提案_規委メール審議対応_規格委提案
_R0

104-21-1-2_公衆審査版修正提案_規委メール審議_意見対応_原専提案_R1a

104-21-1-3_環境疲労評価手法(2022 年版)公衆審査版修正提案一覧表_規委 LB 反映_R7b

104-21-1-4_公衆審査版からの修正リスト_書面投票対象_環境疲労評価手法 2022 年版_R6a

104-21-1-5_2022 年版_公衆審査からの変更_見え消し原稿_R2

104-21-2-1_環境疲労評価手法 2022 年版英訳版改定提案_原専 LB+メール審議反映_R0

104-21-2-2_環境疲労評価手法 2022 年版英訳版改定提案_原専 LB 意見対応

104-21-2-3_環境疲労評価手法 2022 年版英訳版改定提案_原専メール審議意見対応

104-21-2-4_環境疲労評価手法(2022 年版)英文版_和英比較_原専 LB コメント反映

104-21-3_環境疲労評価手法 審議経緯と今後の進め方
(104-22 欠番)

104-23-1-1 R0_SA ガイドライン改定案_公衆審査版からの変更提案_LB コメント反映版

104-23-2-1_BWR SCV 健全性評価ガイドライン改定案見え消し版_原 695 規 576 反映版

104-23-2-2_PWR PCCV 健全性評価ガイドライン改定案見え消し版_原 695 規 576 反映版

104-23-2-3_PWR SCV 健全性評価ガイドライン改定案見え消し版_原 695 規 576 反映版

104-23-3-1_BWR SCV 健全性評価ガイドライン改定案クleanアップ 版_原 695 規 576 反映版

104-23-3-2_PWR PCCV 健全性評価ガイドライン改定案クleanアップ 版_原 695 規 576 反映版

104-23-3-3_PWR SCV 健全性評価ガイドライン改定案クleanアップ 版_原 695 規 576 反映版
(104-24 欠番)

104-25-1_規格委メール審議提案

104-25-2-1_「規格委提案 来歴表 竜巻ガイドライン改定提案」

104-25-2-2_規格委員会書面投票 no. 566 の投票結果

104-25-2-3_【R1】103-25-1 竜巻ガイドライン改定案 規格委員会の書面投票 no. 566 の対応について

104-25-2-3 補足 【回答 No 確認用、回答自体は 104-25-2-3 を正としてください】 規格委員会の書面
投票 no566 対応 (2)

104-25-2-4_竜巻ガイドライン改定案 規格委員会書面投票 no. 566 の対応による新旧対照表 (案)

104-25-2-5_竜巻ガイドライン改定案 公衆審査用原稿案

104-25-2-6_「竜巻ガイドライン改定骨子」

104-26-1 規格委 LB No. 585 意見対応案 (推奨クリープ)

5. 議事内容

(1) 開 会

出席者を点呼し、定足数(委員総数の 2/3 以上)を満足することを確認した。

(1-1) 議事次第 確認

(1-2) 前回議事録の確認【資料 104-1】

事務局より概要が説明され、議事録として承認された。

(2) 委員人事

(2-1, 2) 規格委員会及び専門委員会委員人事【104-2-1, 2-2】

規格委員会及び各専門委員会の委員人事案件について報告・審議が行われ、全会一致で承認された。
内容は以下のとおり。

- 規格委委員会
 - [再任] ー
 - [退任] 班目アドバイザー、中澤委員（火原協）
 - [新任] 増川委員（火原協）
- 火力専門委員会
 - [再任] 木村委員（東芝 ESS）
 - [新任] ー
 - [退任] ー
- 原子力専門委員会
 - [再任] ー
 - [新任] ー
 - [退任] 栗飯原委員（東大）
- 材料専門委員会
 - [再任] 尾崎委員（JERA）、高木（火原協）、野村（IHI）、高澤（日本製鋼 M&E）
 - [退任] ー
 - [新任] ー
- 核融合専門委員会
 - [再任] 中村（IHI 検査計測）
 - [新任] ー
 - [退任] ー

(3) 優先的に審議すべき事案またはトピックス

(3-1) AM 規格の骨子について【資料 104-3-1】（説明者：松永タスク長）

2021 年 1 月に発足した AM タスクは、3 D プリンタによる金属積層造形（AM：Additive Manufacturing（付加製造））技術を原子力機器に適用する際の規格を検討してきた。規格の骨子について原子力専門委員会での意見伺い投票に入っており、その内容が紹介された。

- 規格案の骨子：ASME PTB13-2021 を参考に規格案を策定した。適用対象はクラス 1 及び炉心支持構造物。AM プロセスは国プロでデータを取得する Laser PBF, Laser wire DED の 2 種。
- 材料：国プロでデータを取得する由で材料は SUS316L を対象とする。材料強度が現行の規格値を上回れば、現行の規格値を採用する。
- 今後の課題：文献調査では疲労強度に関する知見が不足しており、疲労評価に対する追加規定を検討中である。

(3-2) 規格改廃提案に対する電事連との協議結果【資料 104-3-2】（説明者：松永原専長）

電事連より示された規格改廃提案に関する協議の状況について松永原専長より報告され、協議が行われた。内容は以下のとおり。

- 電事連側の限られたリソースの元で効果的に管理を行う目的で学協会規格の重要度が 4 段階に分類された。重要度が最も低い「4 類」に JSME 発電規格 11 種（内一つは廃止しても問題なし）が分類された。大半は事例規格である。これに対し、事例規格は新知見を速やかな反映できるなどの特色があること、技術的に誤りがなければ廃止を行わない方針を JSME より説明した。
- JSME 説明に対して、4 類の意味は規格の廃止を求めるということではなく、電事連として管理をしないという意味であり、存続あるいは廃止は、制定側にお任せすべきことと考えていると回答を得た。
- 協議の結果、改定のニーズが低いことを理由に規格を廃止しないこと、電事連との意見交換を行うことで、事業者ニーズの把握を進める方針を共有した。

なお、協議の中で「規格を廃止する例としては、「誤りがある場合」より、「事例規格として発行された

ものを本体規格に取り込んだ場合」など、前向きな理由を挙げた方がよい。」との意見があった。

(3-3) NBI 絶縁体構造規格の概要について【資料 104-3-3】(説明者:核専 戸張委員)

核融合専門委員会 戸張委員より、ITER 中性粒子入射装置 (NBI) を構成する絶縁構造体の構造規格の検討状況について報告された。内容は以下のとおり。

- ITER 計画は、7 極が参加する国際プロジェクトである。フランスに建設中のトカマク炉を用い、外部注入されるエネルギーの 10 倍の核融合出力を 300-500 秒間保持する目標を掲げている。プラズマ加熱のために中性粒子ビームをトカマクに打ち込む中性粒子入射装置 (NBI) と呼ばれる機器のうち、日本は直流 1 MV 高電圧電源と加速器を製作して納入する。
- 核融合専門委員会では、ITER において、負イオン源・加速器にと高電圧を絶縁しながら供給する高電圧ブッシングと呼ばれる絶縁構造体に用いるガラス繊維強化プラスチック (GFRP) 円筒の構造規格を策定中である。ASME Sec. X を参考に ITER 独自の要求事項を加える構成である。
- これまでに核融合専門委員会投票及び材料専門委員会の意見伺い書面投票を実施し、その結果を反映した修正案を対象に核融合専門委員会での再投票に進む予定である。

主な議論は以下のとおり。

- ・「絶縁構造体は差圧による鉛直の圧縮荷重を受けるとの説明であったが、想定される損傷モードは座屈と考えてよいか」⇒「そのとおりである」
- ・「フランス当局の安全審査への対応にはどのように関与するのか」⇒「直接には ITER 機構が対応するが、我々は必要な技術情報を ITER 機構に提案する形で支援を行うことになる。」

(3-4) 使用済燃料貯蔵施設規格 アルミ合金事例規格に関する審議：【資料 104-3-4】

(説明者：金属キャスク用アルミバスケット材料検討タスク (フェーズ 2) 波木井主査、永田タスク員)

- アルミ合金事例規格に関する技術的修正案を対象に再投票として実施された原専書面投票 No. 680 及び規格委員会書面投票 No. 564 意見対応の状況について報告され、挙手による採決により承認された。(資料 104-3-4-1)
- 公衆審査の実施について以下のとおり説明があり、挙手による採決によって承認された。(資料 104-3-4-2)
 - ・実施期間：2023/1 ～2023/2 (1 か月)
 - ・実施方法：JSME ホームページにて公開し、意見を受け付ける

(3-5) 累積損傷則の成立性について【資料 104-3-5】(説明者：西井材専長)

材料専門委員会 西井委員長より、最新の研究知見について報告があり、従来の累積損傷則が成立しない事例として問題提起が行われた。内容は以下のとおり。

- 材料によっては、クリープ、疲労、及びクリープ疲労の寿命消費に対する累積損傷則が成立しない可能性がある。要因について、詳細な冶金学的調査により解明することが望まれる。
- 既存の累積損傷の流用においては、材料と使用条件に応じ、保守的な結果を得るための補正を行うべき。

主な議論は以下のとおり。

- ・式の補正を保守性を確保する方向で用いるとの提言であるが、最近の動向に照らして最確評価の精度を上げる方向で適用する考え方もあるのでは？⇒それが理想的な姿と思う

(4) 発電用設備規格に関する審議

(4-1) 発電用火力設備規格に関する審議：【資料 104-12】

(説明者：藤田委員長)

- 詳細規定 第 VI 章 非破壊検査、第 VII 章 溶接施工法・溶接技量 誤記調査結果に基づく修正提案：火専溶接分科会が所掌する両章は、既に改定案について規格委員会での書面投票が可決、承認され

ている。ただし、その後 2012 年版第 VII 章に対し、外部から ASME 規格との不整合の指摘を受けて実施した調査の結果、転記ミス等が複数特定された。この対応として、承認された改定案の修正について書面投票の実施が提案された。

- 挙手による採決の結果、30 日間の書面投票を行うことが承認された。

(4-2) 発電用原子力設備規格に関する審議

原子力専門委員会松永委員長から概要を説明後、各分科会代表から個別に議案の説明及び審議が行われた。各規格の審議結果は以下のとおり。

(4-2-1) 発電用原子力設備規格 設計・建設規格：【資料 104-13】

(説明者：設計・建設分科会 朝田主査)

設計・建設規格<第 I 編 軽水炉規格>に関する審議が行われた。内容は以下のとおり。

- 正誤表発行の審議：5 件の正誤表発行提案があり、書面投票を行うことが承認された。(資料 104-13-1-1～5))
 - ① [DC22-22] 解説での式に対する正誤表
 - ② [DC22-16] 許容応力に対する特別な要求の JIS G 4052 に対する正誤表
 - ③ [DC22-20] PPC/PPD-3424 穴の補強の適合条件に対する正誤表
 - ④ [DC22-24] 図 VVB-3320-1 矢印の抜けに対する正誤表
 - ⑤ [DC22-25] 図 VVB-3411-1 r1 寸法位置に対する正誤表
- 正誤表の発行の報告：正誤表 2 件の書面投票が可決し、発行されたことが報告された。(資料 104-13-1-6, 7)
 - ① [DC22-19] 解説 VVB-3390 JIS B 8265 タイトルの正誤表表：書面投票 No. 578 で可決・承認
 - ② [DC22-15] 式(解説 PVE-2. 3) 右辺第二項の正誤表：書面投票 No. 579 で可決・承認
- 2022 年版公衆審査からの修正：2022 年版について公衆審査版からの修正について提案が行われた。審議の結果、編集上の修正として挙手による採決により承認された。(資料 104-13-2)

(4-2-2) 発電用原子力設備規格 溶接規格：【資料 104-14】

(説明者：溶接分科会 小口幹事)

- 正誤表発行提案の審議：規格委員会書面投票 No589 が意見無しで可決され、正誤表の発行が承認されたことを確認した。
- 2022 年版 公衆審査からの変更提案の審議：規格委員会書面投票 No581 が意見無しで可決され、公衆審査版からの変更が承認されたことを確認した。

(4-2-3) 発電用原子力設備 維持規格に関する審議【資料 104-15】

(説明者：維持規格分科会 野村主査)

- 規格委員会書面投票意見対応案：以下の 2 件について意見対応案が説明され、承認された。
 - ・補修章における検査章の参照先の見直し：資料 104-15-1
 - ・添付 E-10 2 パラメータ評価法の改定に伴う本文規定の改定：資料 104-15-2
- 維持規格 2022 年版及び事例規格集についての公衆審査において寄せられた意見に対する回答案の説明が行われ、審議の結果、一部修正の上、15 日間のメール審議を行うことが全会一致で承認された。(資料 104-15-3)
- 新規提案：以下の件について提案説明が行われ、審議の結果、実施中の原子力専門委員会投票の可決を条件に 30 日間の書面投票を行うことが全会一致で承認された。
 - ・PWR ラジアルキーの検査：資料 104-15-4

(4-2-4) 発電用原子力設備 材料規格に関する審議：【資料 104-16】

(説明者：材料分科会 山田主査)

- 2022 年版公衆審査からの修正：公衆審査後に見つかった誤記について修正提案の説明が行われた。挙手による採決の結果、編集上の修正として訂正を行うことが承認された。（資料 104-16）

(4-2-5) 発電用原子力設備規格 高速炉規格等に関する審議【資料 104-17】

（説明者：高温規格分科会 高屋主査）

- 高速炉規格 2024 年版改定案の審議：以下の 3 件の新規改定案件について提案説明が行われた。挙手による採決の結果、実施中の原子力専門委員会の書面投票可決を条件に規格委員会の書面投票を行うことが承認された。
 - ① [ETD13-002] 材料強度基準等に規定する材料と JIS 材料の関係明記（資料 104-17-1）
 - ② {ETD22-011} JISG0567 鉄鋼材料及び耐熱合金の高温引張試験方法と JIS K 6250 ゴム-物理試験方法通則の準用年版の更新と日本産業規格の追記（資料 104-17-2）
 - ① {ETD-22-013} 用語「パッキン」の使用方法的適正化（資料 104-17-3）
- 高速炉規格 正誤表発行提案の審議：以下の 3 件の正誤表発行について提案説明が行われた。挙手による採決の結果、実施中の原子力専門委員会の書面投票可決を条件に規格委員会の書面投票を行うことが承認された。
 - ① [ETD-22-010] クラス 2 配管の熱荷重に関する規定に対する正誤表の発行（資料 104-17-4）
 - ② {ETD-22-015} クラス 1 支持構造物の構造の規格の解説に対する正誤表の発行（資料 104-17-5）
 - ③ {ETD-22-016} FPVE-3110 で呼び出している規定番号及び FPVC-3901 解説タイトルに関する正誤表の発行（資料 104-17-6）
- 高速炉規格 信頼性評価ガイドライン 2022 年版 公衆審査からの変更：公衆審査後に見つかった誤記に対する修正について提案説明が行われた。挙手による採決の結果、実施中の原子力専門委員会メール審議の可決を条件に規格委員会のメール審議を行うことが承認された。（資料 104-17-7）

(4-2-6) 使用済燃料貯蔵施設規格に関する審議【資料 104-18】

（説明者：白井主査）

- 金属キャスク構造規格 2016 年公衆審査版からの改定提案：
 - ・審議の経緯：規格委書面投票 No. 498（2 次投票）が可決要件を満たさずに終了した材料規格 2 件（FCD 球状黒鉛鋳鉄、GLF5 低温用合金鋼鍛鋼品）について、第 99 回規格委員会（2021-9-22）にて対応を審議した結果、同改定案について材料専門委員会での審議・承認を求める方針が合意された。これを受け、材料専門委員会での審議が行われ、2 次投票（材専投票 No. 56，2022-11-18 終了）にて可決・承認された。
 - ・2 次再投票の審議：材料専門委員会での可決・承認を受け、規格委員会での 2 次投票の再投票を行うことが提案された。挙手による採決の結果、2 次投票の再投票を行うことが承認された。

(4-2-7) 配管減肉管理規格【審議なし】資料 104-19 欠番】

(4-2-8) 配管耐震評価に関する事例規格に関する審議：【資料 104-20】

（説明者：中村いずみタスク主査）

- 報告事項のみにつき、資料を参照いただくこととして、審議を省略した。

(4-2-9) 環境疲労評価に関する規格の審議【資料 104-21】

（説明者：疲労評価分科会 高橋主査）

- 発行版（和文）について、公衆審査後の軽微な修正に対する規格委員会メール審議で可決されたこと及び意見対応結果について報告され、さらに誤記及び編集上の修正として扱わない修正 1 件についての報告を行い承認された。
- 英訳版について、原専での書面投票結果を受けた原専メール審議の可決を条件とし、規格委員会での書面投票を行うことが承認された。

- (4-2-10) 発電用原子力設備規格 コンクリート製格納容器規格に関する審議：審議なし【資料 104-22 欠番】
- (4-2-11) 発電用原子力設備規格 シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドラインに関する審議【資料 104-23】（説明者：SA 対応分科会 永田主査）
- 書面投票結果の報告：公衆審査版から変更に関する規格委書面投票 No. 576 の各子投票が可決要件を満たし、意見対応が終了したことを確認した。（資料 104-23-1, 2）
 - ガイドライン初版に対する正誤表の発行：規格委書面投票 No. 576 子投票 3 の可決を受け、原稿チェックで見つかった誤記の内、初版から引き継がれている誤記について初版を対象とする正誤表を発行することが承認された。（資料 123-23-3）
 - ガイドライン 2022 年版出版原稿の修正：規格委書面投票 No. 576 子投票 4 の可決を受け、公衆審査版からの修正を行うことが承認された。（資料 104-23-4）
- (4-2-12) 目標信頼性評価に基づく静的機器の構造評価ガイドラインに関する審議 審議なし【資料 104-24 欠番】
- (4-2-13) 竜巻影響評価ガイドラインに関する審議【資料 104-25】
（説明者：竜巻影響評価分科会 白井主査）
- 改定案に関する書面投票 No. 566 の意見対応に伴う編集上の修正及び公衆審査の実施について提案説明が行われた。
 - 挙手による採決の結果、原子力専門委員会でのメール審議可決を条件に編集上の修正及び公衆審査に実施についてメール審議による採決を実施することが承認された。
- (4-2-14) 「推奨クリープ・クリープ破断試験方法に関する審議【資料 104-26】（説明者：材料専門委員会 材料規格統合化分科会 山田主査）
- 規格委員会意見伺い投票（No. 585）で出された意見を反映した修正案について提案説明が行われた。
 - 挙手による採決の結果、意見を反映した修正案を対象に 30 日間の書面投票を実施することが承認された。
- (5) 発電用設備規格委員会活動状況報告応
- (5-1) 規格委員会幹事会報告【資料 104-4】
伊阪幹事より 10/26 に開催された第 92 回規格委員会幹事会の概要について説明が行われた。
- (5-2) 書面投票結果【資料 104-5】
事務局より書面投票の実施状況について資料により報告された。
- (5-3) 公衆審査報告【資料 104-6-1】
事務局より、以下の発電用原子力設備規格の改定案に関する公衆審査が終了したことが報告され、これらの規格を 2022 年版として制定することが確認された。（表示は審査終了が早い順による）
- ・ JSME S NJ1-2022 材料規格
 - ・ JSME S NA1-2022 維持規格
 - ・ JSME S NC2-2022 設計建設規格＜第 I 編 高速炉規格＞
 - ・ JSME S NX8-2022 高速炉機器信頼性評価ガイドライン
- (5-4) 質問受付回答状況【資料 104-6-2】
事務局より、質問の受付及び回答状況について報告された。
- (5-5) 火力専門委員会報告【資料 104-7】
火力専門委員会の活動状況について資料により報告された。内容は以下のとおり。
- 12/5 WEB 開催された第 102 回火力専門委員会の結果を中心に報告された。
 - 次回 第 103 回火力専門委員会は 2023/3/1 に WEB 開催の予定。

(5-6) 原子力専門委員会報告【資料 104-8】

原子力専門委員会の活動状況について資料により報告された。内容は以下のとおり。

- 12/8 に WEB 開催された第 112 回原子力専門委員会の結果を中心に報告。
- 次回 第 113 回原子力専門委員会は 2023/3/2-3 にハイブリッド方式で開催の予定。

(5-7) 材料専門委員会報告【資料 104-9】

材料専門委員会の活動状況について資料により報告された。内容は以下のとおり。

- 12/9 に WEB 開催された第 56 回材料専門委員会の結果を中心に報告。
- 次回 第 57 回材料専門委員会は 2023/3/1 に WEB 開催の予定。

(5-8) 核融合専門委員会報告【資料 104-10】

核融合専門委員会の活動状況について資料により報告された。内容は以下のとおり。

- 12/7 に web 開催された第 80 回核融合専門委員会の結果を中心に報告。
- 次回 第 81 回核融合専門委員会は 2023 年 2 月下旬に WEB 開催の予定。

(6) 委員会運営に関する報告／審議

(6-1) 原子力関連学協会規格類協議会の活動状況報告【資料 104-11-1】

伊阪幹事より規格類協議会の活動状況について報告された。内容は以下のとおり。

- 2022/11/16 に幹事会、12/15 に協議会が開催された。
- 機械学会より、規格の策定状況について報告を行った。

(6-2) ピアレビュー活動状況【資料 104-11-2】

伊阪幹事より、ピアレビューの活動状況について報告が行われた。内容は以下のとおり。

- ・対象となった維持規格 2020 年版の策定プロセスに対し、自己レビューを進めている。
- ・来年 2 月に JSME にて現地レビュー会を実施予定。

(6-3) ASME Code 委員会に関する報告【資料 104-11-4】

原子力専門委員会 松永委員長より、2022/10/25～11/7 を中心に開催された ASME B&PV Code 委員会のうち、JSME 規格委員会の運営に関連が深いと考えられる次の委員会の概要が報告された。

- ・ SDO Code Convergence Board (11/7 開催)：添付-1
- ・ ASME/JSME Joint TG Severe Accident (11/8 開催)：添付-2
- ・ ASME/JSME Joint WG RIM Process and System Based Code (10/30 開催)：添付-3
- ・ Code Week での ASME Sec. III に関する成果を統括する News Letter：添付-4

(6-4) 発電規格 出版及び電子配信に関する報告【資料 104-11-7】

事務局より、規格の出版ならびに電子配信の状況について報告があった。内容は以下のとおり。

- 11 月末で確定した電子配信による売り上げは前年度の 3 倍近くとなり、年度目標を達成した。
- 公衆審査が完了した規格の出版について、理事会及び出版センターでの審議状況が報告された。

(7) 今後の予定

次回、次々回の発電用設備規格委員会の開催予定は以下のとおり。

- 第 105 回 発電用設備規格委員会：2023 年 3 月 9 日（木）10：00～17：00（WEB 開催）
- 第 106 回 発電用設備規格委員会：2023 年 6 月 20 日（火）10：00～17：00（対面＋WEB）